

佳作

## ぼくのーばんの友だち

宮城県 聖ドミニコ学院小学校二年 永田 煌和

ぼくには、ゆいといくんという友だちがいます。ゆいといくんとは、ようちえんの年中で出あいました。今も、えい語のならいごとで、一しゅうかんに五回はあっています。

ゆいといくんは、ケガをしてうごけない友だちにかたをかしてあげたり、ゲームをしていてあい手のチームがまけたときは

「まけちゃったけど、がんばったね。」

とこえをかけたたりするなど、やさしいところがたくさんあります。ゆいといくとあそんでいると、なんだかぼくはゆいといくんが家ぞくのようにかんじます。

ゆいといくとよくあそぶのは、えい語のならいごとのしき地にあるひろい森の中です。ぼくたちはそのこのゆうぐであそんだり、おにごっこをしたり、グラグラばしをわたったりします。ときには、森では

なくひろばではしってあそびます。

そんなゆいといくんから、ぼくのたん生日にバースデーカードのかわりに、バースデーブックをもらいました。しらないかん字には、すべてふりがなをちゃんとかいてくれていたので、すらすらよむことができました。

『On Your Birthday』という小さい本で、ふたりの友だちがなかよくしていて、その友だちの一人が、もう一人のためにかいた手紙みたいな本でした。

絵にも、ゆいといくんがセリフをかきこんでいたので、まるでぼくとゆいといくんの本みたいだなあと思いました。その中で、「もしものときには…わすれないで。すぐにとんでいくから」というところが、かんだうしました。

ぼくが何かとてもこまって、だれかにたすけてもらいたいとき、たすけにきてくれる人と言えは、ふつうはお父さんやお母さんです。それをだいすきな友だちがたすけにきてくれるなら、それは本とうに家ぞくみたいです。ぼくはすぐくうれしいし、何だかむねがギユウツとなって、きゆうになみだが出てきました。うれしくてなみだが出たのは、生まれて

はじめでだったので、びっくりしました。

ゆいとかんとは、年中で出あってからずっと、けんかをしないで、こまったときはゆずりあってきました。もし、ゆいとかんが一人ぼっちになったら、とびついてあげたいくらい大せつな友だちです。